

「ユーザー視点の港湾再生による地域活性化のあり方に関する委員会」論点整理

＜基本的方向性＞

(論点1)現状認識

○釜山港等との厳しい競争条件のもとで、京浜三港は取扱量を増加させるポテンシャルはどこにあるのか？(航路、産業等)

(論点2)我が国港湾の役割分担等

○我が国の港湾への集荷等については、地方港も含め分散しすぎており、特定の港湾(京浜三港等)への集中を目指すべきではないか？(京浜と阪神との間の関係、日本海側の自治体の対応等)

(論点3)京浜三港内での機能分担

○京浜三港の中でも、特定の港に特定の機能を集約させる等一体的経営の具体的な効果を出すための取り組みが必要ではないか？

＜具体の施策＞

(論点4)港湾利用等に係る環境の改善

○荷主の需要に応じて、港湾の24時間利用を可能にするなど、サービス水準の向上を進めるべきではないか？

○港湾の利用コストを下げるための工夫が必要なのではないか？

○水先制度について、一層の規制緩和が必要ではないか？

(論点5)大型船対応

○大型船化に対応した港湾整備等の環境整備が必要ではないか？

○トン税の仕組みについて見直しが必要ではないか？

(論点6)内陸部の対応等物流ネットワーク

○インランドデポの整備を積極的に進めるべきではないのか？

○鉄道による集荷をより円滑にする等の工夫が必要ではないか？

○45フィートコンテナの陸上輸送について、規制緩和が必要ではないか？

○内航海運を取りまく規制緩和を進めて、内航コストの低減を図るべきではないのか？

(論点7)その他の個別施策

○その他どのような施策が必要なのか？

＜施策推進の方向性＞

(論点8)施策推進の方向性

○港湾再生に関連する施策の推進については、様々な課題が存することを踏まえ、関係者の連携のもと、より総合的な施策展開を図ることが重要ではないか。